

指 定 文 化 財 一 覧

(安 芸 太 田 町 指 定 文 化 財)

番 号	指 定 区 分	種 別 (種 類)	名 称 (指定年月日)	員 数	構 造 ・ 形 式 ・ 大 き さ 等	沿 革 ・ そ の 他
		分 類				
1	町 有 形 民 俗	有形民俗文化財 (その他)	川舟関係用具 (昭和 37 年 7 月 1 日)	一 式	川舟の櫓、櫓、網や船頭が身 に付ける衣類や携行物	川・森・文化・交流セン ター玄関ロビー及び同 2 階の歴史民俗資料館に 展示。
		民俗文化財				
2	〃 無 形 民 俗	無形民俗文化財 (その他)	加計げんこつ踊り (昭和 38 年 1 月 12 日)	一	揃いの浴衣に編笠、背中に行 灯を背負い、左手に筒型の提 灯、右手に鳴子を持つ。蠟燭 が灯る	元来は鳥追いの鳴子を用 いて踊る豊年踊りの一 種。丁川地区のみに伝 わる。
		民俗文化財				
3	〃 天 然	天然記念物 (生 物)	吉水園の淡水海綿 (昭和 42 年 6 月 10 日)	一 群	無色透明で最も原始的な多細 胞動物。 『ヌマカイメン』と思われる	吉水園内の「玉壺池」に 棲息。
		記 念 物				
4	〃 無 形 民 俗	無形民俗文化財 (その他)	殿賀田楽 (昭和 56 年 11 月 30 日)	一	六調子、八調子、中の調子の 3 調子で舞われる。箆、大太 鼓、小太鼓、調子鉦、早乙女 で構成	殿賀地方に伝わる田植 囃子。
		民俗文化財				
5	〃 史 跡	史 跡 (古 墳)	遅越第一号古墳 (昭和 59 年 4 月 1 日)	一 ヶ 所	円墳、横穴式石室 面積＝953 m ² (未発掘地域含 む)	
		記 念 物				
6	〃 建 造 物	重要文化財 (石造 物)	八幡神社石燈籠 (昭和 60 年 1 月 10 日)	一 石	高さ 5.5m、笠部分は 8 畳敷 (13.2 m ²)の広さで、亀の形。 自然石では日本一といわれ る。	安政 4 年(1857)建立。笠 石は対岸の高下から運 ばれ、その際神の使いの 亀に助けられた逸話
		有形文化財				

指定解除 (平成 28 年 12 月 26 日)

理由：枯死による倒木のため

（ 安 芸 太 田 町 指 定 文 化 財 ）

番号	指定 区分	種 別 (種 類)	名 称 (指定年月日)	員 数	構 造 ・ 形 式 ・ 大 き さ 等	沿 革 ・ そ の 他
		分 類				
8	町 天然	天然記念物 (樹 木)	津浪河内神社のスギの 群生 (平成9年1月23日)	八 株	(8本中最大木の数値) 胸高幹囲 4.85m, 樹高 40m, 推定樹齢 600 年	神社の社殿を取り囲む ように巨樹 8 本がそび えている。神社は永和 元年(1375)建立。
		記 念 物				
9	〃 天然	天然記念物 (樹 木)	辻ノ河原のサイジョウ ガキ (平成9年1月23日)	一 株	胸高幹囲 3.32m, 樹高 16m 推定樹齢 500 年 県内第 1 位(県文化財協会資 料)	伝承によると「飢餓の 時に干し柿にしておく 役があった。」といわ れ、歴史的意義を持つ。
		記 念 物				
10	〃 無形 民俗	無形民俗文化財 (その他)	神楽一四神一 (平成10年1月23日)		4 人の舞子が烏帽子をかぶり、 垂直に袴をはき、小さな柄の ない幣と鈴、後に扇子と鈴で 舞う	儀式舞。石見神楽矢上 系の流れをくむ芸北町 橋山神楽団より伝授さ れる。
		民俗文化財				
指定解除（令和8年3年18日） 理由：危険枝の伐採等により景観を維持できなくなったため						
12	〃 天然	天然記念物 (樹 木)	古寺尾のウラジロガシ (平成14年7月5日)	一 株	胸高幹囲 7.35m, 樹高 22m 推定樹齢 800 年 胸高幹囲県内第 1 位, 樹高 2 位	幹根元部分は火災によ り空洞化。しかし、樹勢 が急激に損なわれると は考えられない。
		記 念 物				
13	〃 建造 物	重要文化財 (建造物)	堀八幡神社 玉殿 (平成16年3月17日)	一 基	三間社, 流造, 柿葺 幅 48.5 寸, 奥行 25.2 寸, 高 さ 38.8 寸	15 世紀中期～後期の建 立。室町時代前期～中 期の建築様式を残す貴 重な建築史料。
		有形文化財				
14	〃 建造 物	重要文化財 (建造物)	横山霊岸寺観音堂 厨 子 (平成16年3月17日)	一 基	土居桁, 円柱, 木鼻付き, 如意 頭屋根, 正面棧唐戸。幅 20 寸, 奥行 14.2 寸, 高さ 35.8 寸	1522 年 建 立（墨書 銘）。細部の造りも本 格的な唐様の本格的 な厨子。
		有形文化財				

（ 安 芸 太 田 町 指 定 文 化 財 ）

番 号	指 定 区 分	種 別 (種 類) 分 類	名 称 (指定年月日)	員 数	構 造 ・ 形 式 ・ 大 き さ 等	沿 革 ・ そ の 他
15	町 美術	重要文化財 (美術工芸 品)	木造阿弥陀如来像 (平成 6 年 6 月 23 日)	一 軀	寄木造, 安阿弥陀風の仏像, 台座は八菱形三段框, 像高 39 c m, 台座高 22.5 c m	室町時代の作と推定
		有形文化財				
16	" 美術	重要文化財 (美術工芸 品)	絹本著色親鸞聖人伝絵 (平成 6 年 6 月 23 日)	四 幅 一 対	色彩が鮮やかで筆致が精巧, 図柄が古風。 一幅が横 80 c m, 縦 190 c m	江戸時代 17 世紀後半の 作。収納箱に宝永元年 (1704)とある
		有形文化財				
17	" 美術	重要文化財 (美術工芸 品)	木造阿弥陀如来立像 (平成 6 年 6 月 23 日)	一 軀	寄木造, 安阿弥陀風の仏像, 台座は八菱形三段框, 像高 39 c m, 台座高 22.5 c m	室町時代末期の作と推 定される。明治 44 年本 山東坊住職より譲り受 けたもの
		有形文化財				
18	" 史跡	史 跡 (山城跡)	西光寺山城跡 (平成 6 年 6 月 23 日)	一 ヶ 所	立地は丘陵先端, 4 郭を中心と する小規模な郭群 頂部の一郭は 25m × 20m	室町時代中期 栗栖氏一族の居城
		記 念 物				
19	" 史跡	史 跡 (山城跡)	梶原山城跡 (平成 6 年 6 月 23 日)	一 ヶ 所	遺構は最高所に構えた一郭を 中心に、三方に分かれ尾根を 加工した郭群と堀切からなる	室町時代中期 栗栖河内の居城（芸藩 通誌）
		記 念 物				
20	" 史跡	史 跡 (構造物)	田之尻の猪垣 (平成 6 年 6 月 23 日)	一 ヶ 所	石塁が 7 ㍓ ぐらいの畑（現在 は山林）を囲む形で斜面に沿 って築工。全長 81.5m, 石塁 の高さ 2m 前後	原形がよく残ってい る。造られたのは元禄 期か享保年間と推定さ れる
		記 念 物				
21	" 名勝	名 勝 (峡 谷)	龍頭峡 (平成 6 年 6 月 23 日)	一 ヶ 所	高さ 126m の岸壁からなる「追 森の滝」落差 40m の「二段滝」 落差 20m の「奥の滝」約 2 k m の龍頭溪谷からなる	寛政 9 年 都志見往来日 記に紹介され「芸藩通 誌」にも絵と文が記述 されている
		記 念 物				

(安 芸 太 田 町 指 定 文 化 財)

番 号	指 定 区 分	種 別 (種 類) 分 類	名 称 (指定年月日)	員 数	構 造 ・ 形 式 ・ 大 き さ 等	沿 革 ・ そ の 他
22	町 名勝	名 勝 (自 然 林) 記 念 物	悠久の森 (平成6年6月23日)	一 ヶ 所	原生的天然林「引明の森」究極 の人工林「横泓の森」と「分収 育林」からなっている	平成2年(1990)7 月「悠久の森条例」を定 めた。村有林100周年の 歴史が基盤
23	" 史跡	史 跡 (構造物) 記 念 物	砂ヶ瀬の猪垣 (平成7年9月6日)	一 ヶ 所	全長300mの石塁。イノシシや シカからの「シシ除け」の構造 だけでなく、捕獲や落石防止 の役割も考えられる	享保20年(1735)ごろの 築造と推定される。(古 文書等にはっきりした 記録はない。)
24	" 無形 民俗	無形民俗文化財 (その他) 民俗文化財	上殿囃子田 (平成元年3月10日)		現在、16種類の手合わせに、中ば やし、苗取り、さんばいの神迎え、 神送りまで構成して演技するこ とができる	古くからの伝統そのま まの謡歌が伝承されて いることは大変貴重
25	" 建造 物	重要文化財 (建造物) 有形文化財	実勢寺の開山塔 (平成4年1月27日)	一 基	高さ106cm、幅最大50cm最小 32cm 花崗岩製の無縫塔 開山した雪舟嘉猷禅師の墓塔	雪舟禅師がなくなった 永和元(1375)年後の14 世紀末ごろ造立と推察 される
26	" 建造 物	重要文化財 (建造物) 有形文化財	円光寺の山門 (平成4年1月27日)	一 基	高さ430cm、幅244cm、奥行192 cm 木造四脚門(棟札が残る)	元文2(1737)年の建立。 両袖門がつき、懸魚、墓 股など細部には鎌倉時 代の手法が
27	" 美術	重要文化財 (美術工芸 品) 有形文化財	円光寺の弥陀三尊仏 (平成4年1月27日)	三 軀	阿弥陀如来立像 80.5cm 聖観音菩薩立像 53.0cm 勢至観音菩薩立像 54.0cm (いずれも寄木造り)	各部の特徴から室町時 代中期の作品といわ れ、この地方で三尊形 式である点は珍しい
28	" 天然	天然記念物 (樹 木) 記 念 物	平見谷大歳神社の社叢 (平成7年7月6日)	一 ヶ 所	スギ46本 ヒノキ3本 アカマ ツ2本 ナラ1本 シデ1本	胸高5.24m、高さ34m のスギは県内でも有数 の巨木

（ 安 芸 太 田 町 指 定 文 化 財 ）

番 号	指 定 区 分	種 別 (種 類)	名 称 (指定年月日)	員 数	構 造 ・ 形 式 ・ 大 き さ 等	沿 革 ・ そ の 他
		分 類				
29	町 天然	天然記念物 (樹 木)	猪山大歳神社の社叢 (平成7年7月6日)	一 ヶ 所	スギ31本、モミ50本、ナラ2本、クリ2本、イロハカエデ2本、 ハウノキ3本、ヒノキ2本、ソヨ ゴ1本、イタヤカエデ2本、アベ マキ1本	スギ、モミを中心とする巨 樹群。境内の建物近くに巨 樹が密生するという珍し い景観を示している
30	町 天然	天然記念物 (記念物)	奥ノ原鉱山跡の磁鉄鉱床 の露頭 (平成17年10月28日)	一 ヶ 所	奥ノ原山山頂付近の標高 1020.6 mの稜線沿いにある。稜線を6m あまり掘り下げられており、その 付近から西斜面にかけて、南北方 向に露天堀りの跡と磁鉄鉱床 の露頭が見られる。 0.074ha	二畳紀(約2億5千万年 前)の地層に白亜紀末期 (約7千万年前)に花こう 岩が貫入して出来たスカ ルン鉱床であり、露天堀り の跡と磁鉄鉱床の露頭 が見られる。
31	町 史跡	史跡 (記念物)	宗玄寺の石塁 (平成17年10月28日)	一 ヶ 所	この石塁は、その構造から中世に築 造されたものと考えられる。大きな 自然石によっており、その広い面を 見せる等の築き方は特徴的であつ て、福井市の一乗谷遺跡に戦国時代 の類例が存在しているが、山県郡西 部地方では他に見当たらない貴重 な遺跡である。 経蔵側から北へ30m	築いたのは中世、安芸太田 地方の開発領主であった という栗栖氏の可能性を 指摘できる。栗栖氏は、一 族が近接する箕角城(跡) に拠ったと伝えており、そ の館跡(土居)に近世にな って宗玄寺が他から移築 されたものと推定される。
32	町 史跡	史跡 (記念物)	桜尾城跡 (平成18年8月10日)	一 ヶ 所	土居裏山にある標高 378mの山頂 部に位置する。10以上の郭(曲輪) 群と土塁・堀切など、城を構成す る各遺構の保存状態は良好。標高 320m以上を基本に指定範囲。	郭(曲輪)の規模・配置な どの特徴から16世紀後 半の戦国時代に築城され たものと考えられる。詳 細は不明であるが江戸時 代の資料によると太田栗 栖氏の一族が居城したと 推定される。

（ 安 芸 太 田 町 指 定 文 化 財 ）

号	指定 区分	種 別 (種 類)	名 称 (指定年月日)	員 数	構造・形式・大きさ等	沿革・その他
		分 類				
33	町 建造物	重要文化財 (建造物) 有形文化財	堀八幡神社の本殿 (平成 22 年 3 月 18 日)	一 基	三間社 流造、銅板葺	本殿は、約 300 年前の江戸時代中期に再建され、現存している貴重な建造物である。平安時代以来の正統の造りが受け継がれるとともに、葦束など中世の部材を遺し類い稀な価値を持つといえる。
34	町 建造物	重要文化財 (建造物) 有形文化財	長尾神社本殿 (平成 22 年 3 月 18 日)	一 基	三間社 春日造 (入母屋造妻入)	本殿は、約 280 年前の江戸中期に再建され、和歌山の熊野権現と同じ春日造りで、県内随一という珍しいもの。内陣・内々陣のみで外陣がないのは、早い年代に拝殿から拝んでおり、厳島神社など大社に見られる格式の高い本殿である。
35	町 建造物	重要文化財 (建造物) 有形文化財	正覚寺 経蔵 (平成 25 年 3 月 19 日)	一 棟	正面三間、柱真々12 尺 1 寸、側面四間、柱真々12 尺 1 寸、宝形造、 棧瓦葺、向拝一間、棧瓦葺 附 傳太子像 1 軀 脇侍像 2 軀 一切経	元禄 15 (1702) 年の建築で広島県内では現存最古の土蔵造の経蔵であり、全国的にみても極めて古く貴重。

（ 安 芸 太 田 町 指 定 文 化 財 ）

番 号	指 定 区 分	種 別 (種 類)	名 称 (指定年月日)	員 数	構 造 ・ 形 式 ・ 大 き さ 等	沿 革 ・ そ の 他
		分 類				
36	町 美 術	重要文化財 (美術工芸 品) 有形文化財	実際寺 木造雪舟禅師倚像 (平成 25 年 3 月 19 日)	一 軀	像高 34.0 cm	篤実そうな表情や袖の写 実的な表現の仕方など、小 型ながら雪舟禅師の遺徳 を偲ぶことのできる貴重 な彫刻。本体や曲ろくの一 部に破損が見られるが、保 存状態は良好。
37	町 美 術	重要文化財 (美術工芸 品) 有形文化財	諏訪神社 隨身倚像 (平成 25 年 3 月 19 日)	一 対	木造 (寄木造) 左隨身倚像 47.0 cm 右隨身倚像 47.5 cm	隨身像は二体から成る が、両像とも木造で袖端 を別に作る寄木造。冠束 帯の彫り方は、表現が乏 しいが、地方の作らしい 荒々しさを感じることが でき、安芸太田町の文化 を知る上で貴重。
38	町 美 術	重要文化財 (美術工芸 品) 有形文化財	諏訪神社 狛犬 (平成 25 年 3 月 19 日)	一 対	阿形狛犬 高さ 32.5 cm 長さ 22.5 cm 吽形狛犬 高さ 31.5 cm 長さ 18.5 cm	諏訪神社の狛犬は、阿形と 吽形の一対であり全体の 形状から十六世紀前期に 制作されたものと考えら れる。保存状態は概ね良 好。
計	3 6	有形文化財(美術 7)、有形文化財(建造物 8)、無形民俗文化財 4、有形民俗文化財 1、 名勝 2、史跡 7、天然記念物 7				